新居浜工業高等専門学校	語学研修科目（本科）	開講年度	令和04年度 (2022年度)

学科到達目標

語学研修科目（本科）は、全学科・全学年対象である。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	選択	英会話演習A１	104740	履修単位	1																			福光 優一郎	
一般	選択	英会話演習A２	104741	履修単位	1																			福光 優一郎	
一般	選択	英会話演習B	104742	履修単位	2																			福光 優一郎	
一般	選択	海外語学研修A１	104750	履修単位	1																			木田 綾子	
一般	選択	海外語学研修A２	104751	履修単位	1																			木田 綾子	
一般	選択	海外語学研修B	104752	履修単位	2																			木田 綾子	

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英会話演習A１

科目基礎情報

科目番号	104740	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	語学研修科目（本科）	対象学年	0
開設期		週時間数	4
教科書/教材	オンライン教材		
担当教員	福光 優一郎		

到達目標

オンライン英会話を用いた個別最適化した学習機会の提供を目的とする。
到達目標は学習者自らが定め、オンライン上のレッスン教材を用いて講師とともに学習を進め、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	講師と英語で積極的にコミュニケーションを取ることができる。	講師と英語でコミュニケーションを取ることができる。	講師と英語でコミュニケーションを取ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	授業時間外に学習者がオンラインレッスンを受講し、受講回数が３０回を超えた学習者に１単位を認める。レッスンの受講時間以外に、学習内容の予習復習が必要である。
授業の進め方・方法	オンライン英会話では会話教材はもちろん、発音、文法、TOEIC対策、Daily Newsなど様々な教材が用意されている。学習者の目的に応じて教材を選択し、講師と英語でコミュニケーションを取りながら、学習を進める。
注意点	この単位は、進級に必要な単位としては計算されないが、卒業に必要な一般科目の単位として算入される「選択科目」として取り扱う。評価は「優」もしくは「不可」で行う。また、受講費用については自己負担となる。

本科目の区分

本科目は「自由選択科目」である。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	対話	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	100	100

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英会話演習A２

科目基礎情報

科目番号	104741	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	語学研修科目（本科）	対象学年	0
開設期		週時間数	4
教科書/教材	オンライン教材		
担当教員	福光 優一郎		

到達目標

オンライン英会話を用いた個別最適化した学習機会の提供を目的とする。
到達目標は学習者自らが定め、オンライン上のレッスン教材を用いて講師とともに学習を進め、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	講師と英語で積極的にコミュニケーションを取ることができる。	講師と英語でコミュニケーションを取ることができる。	講師と英語でコミュニケーションを取ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	授業時間外に学習者がオンラインレッスンを受講し、受講回数が３０回を超えた学習者に１単位を認める。レッスンの受講時間以外に、学習内容の予習復習が必要である。本科目は、すでに英会話演習A１（１単位）を取得した学生を対象とする。
授業の進め方・方法	オンライン英会話では会話教材はもちろん、発音、文法、TOEIC対策、Daily Newsなど様々な教材が用意されている。学習者の目的に応じて教材を選択し、講師と英語でコミュニケーションを取りながら、学習を進める。
注意点	この単位は、進級に必要な単位としては計算されないが、卒業に必要な一般科目の単位として算入される「選択科目」として取り扱う。評価は「優」もしくは「不可」で行う。また、受講費用については自己負担となる。

本科目の区分

本科目は「自由選択科目」である。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	対話	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	100	100

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英会話演習B

科目基礎情報

科目番号	104742	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	語学研修科目（本科）	対象学年	0
開設期		週時間数	8
教科書/教材	オンライン教材		
担当教員	福光 優一郎		

到達目標

オンライン英会話を用いた個別最適化した学習機会の提供を目的とする。
到達目標は学習者自らが定め、オンライン上のレッスン教材を用いて講師とともに学習を進め、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	講師と英語で積極的にコミュニケーションを取ることができる。	講師と英語でコミュニケーションを取ることができる。	講師と英語でコミュニケーションを取ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	授業時間外に学習者がオンラインレッスンを受講し、受講回数が６０回を超えた学習者に２単位を認める。レッスンの受講時間以外に、学習内容の予習復習が必要である。すでに英会話演習Ａ１もしくは英会話演習Ａ２を取得した学生は、本科目を受講できない。
授業の進め方・方法	オンライン英会話では会話教材はもちろん、発音、文法、TOEIC対策、Daily Newsなど様々な教材が用意されている。学習者の目的に応じて教材を選択し、講師と英語でコミュニケーションを取りながら、学習を進める。
注意点	この単位は、進級に必要な単位としては計算されないが、卒業に必要な一般科目の単位として算入される「選択科目」として取り扱う。評価は「優」もしくは「不可」で行う。また、受講費用については自己負担となる。

本科目の区分

本科目は「自由選択科目」である。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	対話	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	100	100

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	海外語学研修A１

科目基礎情報

科目番号	104750	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	語学研修科目（本科）	対象学年	0
開設期		週時間数	4
教科書/教材	なし		
担当教員	木田 綾子		

到達目標

海外協力校等において、現地の人々との交流や生きた語学環境と異文化を体験することで、グローバルな視野の獲得、学生の語学力や国際コミュニケーション力の向上を目的とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現地の人々と積極的にコミュニケーションを取ることができる。	現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。	現地の人々とコミュニケーションを取ることができない。
評価項目2	国際感覚と異文化共生能力を十分に身に付けている。	国際感覚と異文化共生能力を身に付けている。	国際感覚と異文化共生能力を身に付けていない。
評価項目3	実習の目的や成果を的確に表現できる。	実習の目的や成果を表現できる。	実習の目的や成果を表現できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外での語学研修（オンライン研修も含む）での活動、および事前事後学習を行い、コミュニケーション能力と異文化共生能力を向上させる。本校主催の研修以外も対象とし、その期間や内容に応じて、１単位を認める。
授業の進め方・方法	事前に研修プログラムを提出する。研修中は、現地での様々な活動に積極的に取り組む。帰国後に修了書等を提出する。事後報告の資料を作成し、提出するとともに必要に応じて報告会でプレゼンテーションを行う。
注意点	この単位は、進級に必要な単位としては計算されないが、卒業に必要な一般科目の単位として算入される「選択科目」として取り扱う。評価は「優」もしくは「不可」で行う。

本科目の区分

本科目は「自由選択科目」である。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	成果発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	50	50	100

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	海外語学研修A２

科目基礎情報

科目番号	104751	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	語学研修科目（本科）	対象学年	0
開設期		週時間数	4
教科書/教材	なし		
担当教員	木田 綾子		

到達目標

海外協力校等において、現地の人々との交流や生きた語学環境と異文化を体験することで、グローバルな視野の獲得、学生の語学力や国際コミュニケーション力の向上を目的とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現地の人々と積極的にコミュニケーションを取ることができる。	現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。	現地の人々とコミュニケーションを取ることができない。
評価項目2	国際感覚と異文化共生能力を十分に身に付けている。	国際感覚と異文化共生能力を身に付けている。	国際感覚と異文化共生能力を身に付けていない。
評価項目3	実習の目的や成果を的確に表現できる。	実習の目的や成果を表現できる。	実習の目的や成果を表現できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外での語学研修（オンライン研修も含む）での活動、および事前事後学習を行い、コミュニケーション能力と異文化共生能力を向上させる。本校主催の研修以外も対象とし、その期間や内容に応じて、１単位を認める。本科目は、すでに海外語学研修A１（１単位）を取得した学生を対象とする。
授業の進め方・方法	事前に研修プログラムを提出する。研修中は、現地での様々な活動に積極的に取り組む。帰国後に修了書等を提出する。事後報告の資料を作成し、提出するとともに必要に応じて報告会でプレゼンテーションを行う。
注意点	この単位は、進級に必要な単位としては計算されないが、卒業に必要な一般科目の単位として算入される「選択科目」として取り扱う。評価は「優」もしくは「不可」で行う。

本科目の区分

本科目は「自由選択科目」である。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	成果発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	50	50	100

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	海外語学研修B

科目基礎情報

科目番号	104752	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	語学研修科目（本科）	対象学年	0
開設期		週時間数	8
教科書/教材	なし		
担当教員	木田 綾子		

到達目標

海外協力校等において、現地の人々との交流や生きた語学環境と異文化を体験することで、グローバルな視野の獲得、学生の語学力や国際コミュニケーション力の向上を目的とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現地の人々と積極的にコミュニケーションを取ることができる。	現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。	現地の人々とコミュニケーションを取ることができない。
評価項目2	国際感覚と異文化共生能力を十分に身に付けている。	国際感覚と異文化共生能力を身に付けている。	国際感覚と異文化共生能力を身に付けていない。
評価項目3	実習の目的や成果を的確に表現できる。	実習の目的や成果を表現できる。	実習の目的や成果を表現できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	海外での語学研修（オンライン研修も含む）での活動、および事前事後学習を行い、コミュニケーション能力と異文化共生能力を向上させる。本校主催の研修以外も対象とし、その期間や内容に応じて１単位を認める。すでに海外語学研修A１もしくは海外語学研修A２を取得した学生は、本科目を受講できない。
授業の進め方・方法	事前に研修プログラムを提出する。研修中は、現地での様々な活動に積極的に取り組む。帰国後に修了書等を提出する。事後報告の資料を作成し、提出するとともに必要に応じて報告会でプレゼンテーションを行う。
注意点	この単位は、進級に必要な単位としては計算されないが、卒業に必要な一般科目の単位として算入される「選択科目」として取り扱う。評価は「優」もしくは「不可」で行う。

本科目の区分

本科目は「自由選択科目」である。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	成果発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	50	50	100